

葉山層群模式地の現状(3)

平 田 大 二

Present State of Type Localities, the Hayama Group (3)

Daiji HIRATA

先に筆者(1980, 1981)は、三梨(1968)、三梨・矢崎(1968)の葉山層群の層相区分(木村1968の資料)に従い、下位層準より森戸硬質泥岩層、鍔摺砂岩泥岩互層、大山凝灰質砂岩層などの模式地の現状について報告した。今回も、三梨(1968)らの層相区分に従い、大山凝灰質砂岩層の上位に重なる衣笠泥岩層と、葉山層群最上位の矢部凝灰質砂岩泥岩互層の模式地の現状について報告する。

A. 衣笠泥岩層

衣笠泥岩層は小島(1954)により命名された累層で、白色ち密な泥岩によって特徴づけられるとされている。本累層の模式地は、横須賀市衣笠の国鉄衣笠駅北の崖とされているが、現在では、衣笠駅の北約200mのところにある古い造成地の背面に露頭が残っている(図1, 2)。この露頭の大きさは、高さ約5m、幅約20mほどである。岩相は灰白色の凝灰質泥岩ないし

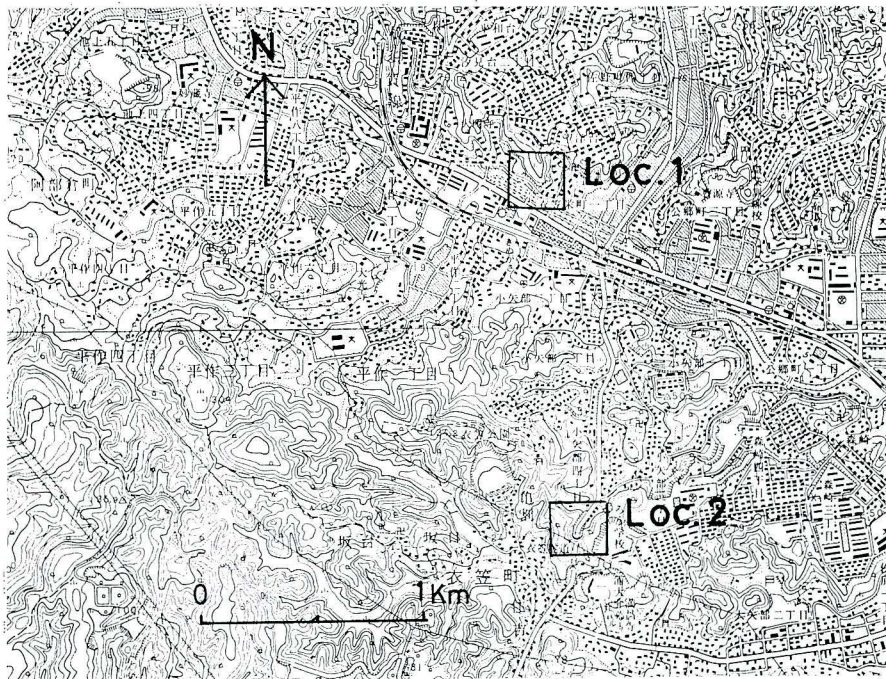


図 1. 葉山層群模式地の位置。Loc. 1 衣笠泥岩層, Loc. 2 矢部凝灰質砂岩泥岩互層, 国土地理院1:25,000地形図「横須賀」「浦賀」による。

は凝灰質細粒砂岩で、硬質ではあるがチリメン状の風化が著しい。細粒砂岩には平行ラミナが認められ、その方向性は $N80^{\circ}W$ 、傾斜はほとんど垂直を示す。現在、露頭の周辺には雑草が生い茂っているが、観察するのに不都合はない。ただ、以前には露頭が東側にも連続していた時期もあったが、現在では住宅が建築されており、観察することはできない。

本累層の分布は、三梨・矢崎(1968)の地質図によれば、横須賀市衣笠から同市池上、山中、阿部倉にかけてと、南西にややはなれて、同市久村にも広がる。

B. 矢部凝灰質砂岩泥岩互層

矢部凝灰質砂岩泥岩互層は木村政昭(1966)により命名された累層で、スコリア質の砂岩泥岩互層、あるいは火砕質粗粒砂岩によって特徴づけられるとされている。本累層の模式地は、横須賀市小矢部の衣笠隧道北口の切通しであるが、地崩れ防止用のコンクリートで露頭はおおわれていたため、観察することはできなかった。しかし、現在新隧道が隣接して構築されたた

め、切通しの東側斜面が大きく削られて、新しい露頭があらわれた(図1, 3)。この露頭における本累層の岩相は、暗青灰色のパミス・スコリア質粗粒砂岩、暗青灰色でラミナの認められるパミス質中粒砂岩と凝灰質泥岩との互層、同様にラミナの認められる灰白色の細粒砂質凝灰岩などである。風化面は一様に茶褐色となる。走向傾斜は、 $N40^{\circ}E, 60^{\circ}SE$ を示す、この露頭も、まもなく地崩れ防止策がなされ、観察は困難になるであろう。

本累層の分布は、三梨・矢崎(1968)の地質図によれば、横須賀市小矢部、大矢部付近から、北西方向の同市平作付近まで広がる。

小島(1954)の坂之台凝灰角礫岩層は、本累層に相当する。

葉山層群についての研究史、従来の層序区分の比較は小島(1954)、見上(1978)の報告に詳しい(表1)。最近の研究では木村ほか(1976)が、三梨・矢崎(1968)の地質図における、衣笠泥岩層、矢部凝灰質砂岩泥岩互層の層序・分布に改訂を加えている。改訂



図 2. Loc.1 衣笠泥岩層。横須賀市衣笠、国鉄衣笠駅北約200m, 1981.12. 3

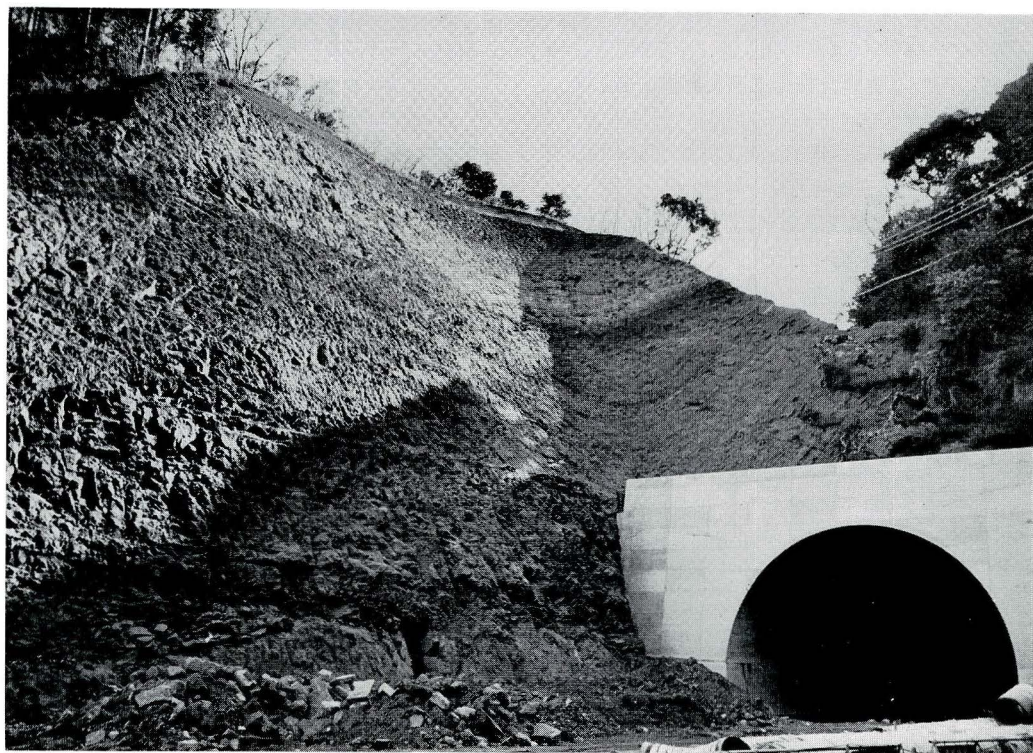


図 3. Loc. 2 矢部凝灰質砂岩泥岩互層. 横須賀市小矢部, 衣笠隧道北口, 1981.12. 3

表 1. 葉山層群の層序 (葉山衣笠地域) (見上, 1978)

小 島 (1954a)	渡部ほか (1968) (葉山町地域)	三梨・矢崎 (1968)	木村ほか (1976) (衣笠付近)
衣笠泥岩層	?	矢部凝灰質砂岩泥岩互層	矢部凝灰質砂岩泥岩互層 ¹
山中細粒砂岩層	大山砂岩層	衣笠泥岩層	~~~~~
大山凝灰質砂岩層	大沢礫岩層	大山凝灰質砂岩層	大山凝灰質砂岩層
旗立山砂岩泥岩互層	戸根山砂岩泥岩互層	鎧摺砂岩泥岩互層	鎧摺凝灰質砂岩泥岩互層
森戸泥岩層	森戸泥岩層	森戸硬質泥岩層	森戸硬質泥岩層

された地質概略図 (木村ほか, 1976) からみると, 衣笠泥岩層とされていた地層は, 森戸硬質泥岩層と鎧摺凝灰質砂岩泥岩互層であるとしている。また, 矢部凝灰質砂岩泥岩互層は, 大山凝灰質砂岩層が大きく削られた後, 森戸硬質泥岩層, 鎧摺凝灰質砂岩層を不整合におおった地層であるとしている。

しかし, 見上 (1978) も指摘しているように, このような不整合の存在や, 葉山層群の層序が研究者により異なることなどの問題は, さらに検討を要するであろう。

文 献

- 江藤哲人 1978 三浦半島の第三系. 昭和53年度全国地学教育学会 野外見学 案内書33-56, 神奈川県地学会.
- 平田大二 1980 葉山層群模式地の現状 (1). 神奈川自然誌 1 49-50.
- 平田大二 1981 葉山層群模式地の現状 (2). 神奈川自然誌 2 63-65.
- 木村政昭 1965 葉山層群の層序と相模湾における葉山層群の分布について. 地質学雑誌 71 838-882.
- 木村政昭 1971 南関東の地殻モデルに関する一考察. 地質ニュース, 204 1-10.
- 木村政昭 1973 陸上地質を相模湾底に追う. 科学, 43 7 420-426.
- 木村政昭・加賀美英雄・本座栄一・奈須紀幸 1970 南関東周辺の海底地質. 日本地質学会第77年学術大会講演要旨 95.
- 木村政昭・湯浅真人・玉井義郎・蟹江康光 1976 三浦半島で発見された漸新-中新世初期の枕状溶岩. 地質調査所月報, 27 7 451-461.
- 小島伸夫 1954 三浦半島の葉山層群について. 地質学雑誌, 60 700 1-6.
- KURIHARA K. 1971 Foraminifera from the Hayama group, Miura Peninsula. *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan*, N. S. 83 131-142.
- 見上敬三 1978 三浦半島 神奈川県史各論 4, 自然編, II 地質 213-251.
- 三梨 昂 1968 三浦・房総半島の地質構造と堆積構造, I 層序概説. 日本地質学会第75年年会地質見学案内書 4-13.
- 三梨 昂・矢崎清貫 1968 日本油田・ガス田図 6, 三浦半島. 地質調査所.
- 三梨 昂・ほか22名 1976 特殊地質図20, 東京湾とその周辺地域の地質. 地質調査所.
- 三梨 昂・ほか22名 1979 特殊地域図(20), 地質説明書, 東京湾とその周辺地域の地質. 地質調査所.
- 渡部景隆 1952 礫岩の測定法(三)-基底礫岩から復元される葉山島. 地学研究 6 1 1-26.
- 渡部景隆・小池敏夫・栗原謙二 1968 神奈川県葉山町地域の地質図説明書. 日本地学教育学会. (神奈川県立博物館)